

# レジリエント建築シンポジウム

＜主催＞ 日本建築学会 企画運営委員会 レジリエント建築タスクフォース

2011年の東北地方太平洋沖地震の発生以降、建物の総合的なレジリエンス評価や企業活動におけるBCP（Business Continuity Plan）レベル評価に関する関心が高まりつつある。また、我が国では近年、地震・豪雨・台風等の自然災害による被害が大きな問題となっている。そこでは、これまでの常識ではカバーできないような事象が多数観測されている。そのような予測が困難な時代においても有効となる「レジリエント建築」への取り組みが求められている。

2019年9月の日本建築学会大会（北陸）では、パネルディスカッション「事業継続計画策定のための地震災害等に対する建物の機能維持・回復性能評価指標の提案に向けて」（建物のレジリエンスとBCPレベル指標検討特別調査委員会）が開催され、レジリエント建築に関する現況報告と議論が行われた。本シンポジウムでは、上記のような自然災害に対する抵抗性能に加えて、災害発生後の高い復旧（回復）性能を有するレジリエント建築およびそれに関する研究について、多様な分野から活発な議論を行いたい。

日時： **2020年11月26日**（木） 13:00～17:00

会場： オンライン（Zoom）

定員： 200名（申込み先着順） ← 定員を増やしました。

参加費： 会員4,000円、会員外6,000円、学生3,000円（資料代・送料込み）

申込締切： 2020年11月13日（金）

申込方法・参加費支払い方法：

インターネットによるクレジット決済のみのお申し込みとなります。以下のURLからお手続きください。

▶ <https://www.ajj.or.jp/event/detail.html?productId=636998>

※お申込み後の参加費の払い戻しはできません。下記の「留意事項」を事前にご確認のうえお申し込みください。

※シンポジウム資料は、お申込み時に入力・指定された【配送先】へ開催数日前にお送りします。なお、【配送先】は国内限定です。

※領収書は、シンポジウム資料送付時に同封します。領収書の宛名は、申込み画面の【領収書宛名】欄に入力された名称で作成させていただきます（お申込み後の文言変更はできません）。

問合せ： 日本建築学会事務局 伏見 Tel. 03-3456-2057

## ＜留意事項＞

- ・会員の方はお申込み時にサインインしたメールアドレス宛に、それ以外の方はお申込み時に入力されたメールアドレス宛に、開催数日前にZoomウェビナー参加用URLをお送りします。
- ・視聴にはPCやタブレットなどの端末と、インターネット環境が必要です。通信料は参加者のご負担となります。
- ・Zoomの使い方・接続方法・動作環境等についてのご質問は、本会ではご相談を受けかねます。Zoomヘルプセンター（<https://support.zoom.us/hc/ja>）をご参照ください。また、Zoomのアプリケーションをご利用の場合は、最新版への更新をお願いします。
- ・配信映像や講演資料の録画、録音、撮影（画面キャプチャ、カメラ撮影等）など複製ならびに二次利用は一切禁止です。
- ・配信映像を申込者本人以外または複数人数で視聴することを禁止します。各人でお申し込みください。
- ・録画配信ではございませんので、開催後の視聴はできません。
- ・参加者の環境やそのときのインターネット回線の状況（障害）により、やむを得ず中断される可能性もございますが、そのような接続不良が生じた場合でも返金はいたしませんので、あらかじめご理解・ご了承ください。
- ・Zoom公式サイトでテスト接続が可能です（<https://zoom.us/test>）。お申込み前に必ずテストをしてください。
- ・シンポジウム当日は、開始30分前から入室を可能にしますので、当日は早めに接続して音声・映像等がきちんと流れるか確認されることを推奨します。

**【プログラム】** \*各講演の題目等は変更となる場合がございます。

司会：朝川 剛（東京電機大学）・増田幸宏（芝浦工業大学）

- 
- 1. 主旨説明** 13:00～13:05 : 牧 紀男（タスクフォース主査／京都大学）
- 2. 建物のレジリエンスとBCPレベル指標検討特別調査委員会報告書説明** 13:05～13:15  
: 小檜山雅之（特別調査委員会幹事／慶應義塾大学）
- 3. タスクフォース報告** 13:15～13:30
- 3-1 各種建築・都市レジリエンス指標WG : 西本篤史（日建設計）
- 3-2 レジリエンス指標活用・基準化検討WG : 堀江 啓（MS&ADインターリスク総研）
- 3-3 変容する自然災害への対応WG : 西嶋一欽（京都大学）
- 4. セッションⅠ：制振、事業継続** 13:30～14:54 [一題当たり12分：発表8分＋質疑応答4分]
- 4-1 蓄電機能を有する質量ダンパーによるレジリエント建築の実現  
: 谷 翼（大成建設）
- 4-2 シナリオ別復旧時間評価モデルとダンパー配置による復旧時間最適化  
: 明橋弘樹（京都大学）
- 4-3 通信を守るレジリエントな建物 : 永作智也（NTTファシリティーズ中央）
- 4-4 レジリエンス創出に向けた建築防災対策の連携に関する提案  
: 野竹宏彰（清水建設）
- 4-5 回復の可能性を最大化する「TOTALレジリエンス」  
: 村田真悟（大林組）
- 4-6 事業継続のための支援建物の条件付き被害評価 : 堀 裕弘（東京海上日動リスクコンサルティング）
- 4-7 使用可能建物数を指標とした確率論的地震リスク評価  
: 木村江里（東京海上日動リスクコンサルティング）
- ＜休憩10分間＞
- 5. セッションⅡ：ポスター** 15:04～15:26 [一題当たり発表2分＋全体での質疑応答14分]
- 5-1 トレーラーハウスを利用した災害支援に関する研究  
: 土屋 真（東京都立大学）
- 5-2 バイオガス設備と中水設備を活用した災害時に利用可能な自立型水洗トイレシステムの検討  
: 山崎祐二（竹中工務店）
- 5-3 建築物による雨水貯留の提案 : 鈴木理恵（竹中工務店）
- 5-4 性能設計とモニタリングによるレジリエント建築 : 今枝裕貴（日建設計）
- 6. セッションⅢ：設備、非構造部材、水害、住宅** 15:26～16:50 [一題当たり12分：発表8分＋質疑応答4分]
- 6-1 建築物の地震後の防火機能維持・回復性の観点からの継続使用性の定量的評価  
: 西野智研（京都大学）
- 6-2 都心部の既成市街地における都市防災力の強化に貢献する熱電併給プラントの設備計画  
: 小林主英（日本設計）
- 6-3 避難所体育館における太陽熱温水床暖房システムに関する試算  
: 伊澤康一（福山大学）
- 6-4 地震による非構造部材の損傷の診断の難易度に関する研究 — 乾式間仕切り壁とALC外壁を対象とした実大載荷実験を通して  
: 八木尚太郎（東京大学）
- 6-5 日本建築学会提言：激甚化する水害への建築分野の取組むべき課題 — 戸建て住宅を中心として  
: 佐土原聡（横浜国立大学）
- 6-6 建築物の水害対策に関する近年の洪水被害を踏まえた考察 — 日本建築学会の提言に添えて  
: 田村和夫（建築都市耐震研究所）
- 6-7 応急仮設住宅の住みやすさアセスメント : 香川治美（九州産業大学）
- 7. まとめ** 16:50～17:00 : 竹脇 出（本会会長／京都大学）
- 

記録：鳥澤一晃（関東学院大学）